

貧困を直視 しつづけた男たち

平成31年2月21日(木)
開場13時30分 開演14時
山陽新聞社さん太ホール
(岡山市北区柳町)

入場無料



笠井 信一

岡山県社会福祉協議会蔵



藤井 静一

岡山県立記録資料館蔵



山本 徳一

天心寮蔵



高橋 慈本

悲眼院蔵



三浦 伊助

三浦家蔵



清田 寂坦

大円寺蔵

講演



新見公立短期大学教授

山本 浩史

「済世顧問の活動と
社会事業」



岡山県立大学特任教授

二宮 一枝

「地域ぐるみの
防貧活動」

明治維新以降日本では、殖産興業・富国強兵にまい進した陰で、人々の貧富の差は拡大していった。1881年に始まった国のデフレ政策（松方デフレ）を機に、全国の農村地帯は疲弊が進み、税を払えない多くの自作農が土地を手放して小作農に転落。困窮の度合いは増して餓死する人たちも少なくなかった。

県民の一割もの人たちが極貧に苦しんでいることを調査で知った岡山県知事の笠井信一は1917（大正6）年、今日の民生委員の先駆となる「済世顧問制度」を創設し、貧困問題の対策と農村の再生を図った。

初代済世顧問で旧馬屋上村（現岡山市）の地主だった藤井静一は、私財を投じて融通講を組織し地域の相互扶助、生活改善を推進。貧困の追放に努めた。また乳児の死亡率が高かったこの時代、旧鳥取上村（現赤磐市）済世顧問で医師の山本徳一は小児保護協会を作り、母子保健・医療の充実に努め多くの命を救った。



津山施療院



医長の久原茂良



顧問委嘱状

さらに旧笠岡町（現笠岡市）済世顧問で僧侶の高橋慈本や旧津山町（現津山市）済世委員で僧侶の清田寂坦らはそれぞれ、「悲眼院」や「津山施療院」を創設。貧困のために治療を受けられない病人を無料で診療するとともに公衆衛生の向上に力を尽くした。旧堺村（現井原市）の三浦伊助は、「酒の害は貧困の要因であり病気を悪化させて貧困スパイラルに陥る」として、飲酒を「社会病」と呼び禁酒と衛生活動を推進した。

シンポジウムではふたりの研究者を招き、防貧・救済済世顧問制度の特質とその変遷、制度の社会的限界、全国への波及とその効果などについて考える。

出演者プロフィール

山本 浩史（やまもと ひろふみ）

新見公立短期大学地域福祉学科教授

広島県庄原市出身。博士（文化科学）。社会福祉士、防災士。専門は社会福祉学、福祉文化学、教育学。特に社会福祉における思想史研究（石井十次、渋沢栄一）や民生委員制度の源流、岡山県済世顧問制度研究、中山間地域で暮らす高齢者の生活継続要因等の研究を行い、教育学研究では社会貢献学習について研究をしている。岡山大学大学院文化科学研究科博士課程修了。川崎医療福祉大学准教授、岡山県立大学准教授などを経て現職。

著者に共著『ボランティアのすすめ』、共著『福祉教育のすすめ』など。済世顧問制度に関する論文は「済世顧問制度におけるケースワーク概念」など多数。

二宮 一枝（にのみや かずえ）

岡山県立大学保健福祉学部特任教授

玉野市出身。博士（文化科学）。看護師、保健師。専門は地域看護学、保健福祉行財政論。特に近代期の社会事業の変遷から愛育委員制度の源流を明らかにし、保健・医療・福祉・教育等における住民主体の地域づくりや保健師教育等に関する研究をしている。

岡山大学大学院文化科学研究科博士課程修了。岡山県保健師、岡山県公衆衛生看護学校教頭、岡山県立大学教授などを経て現職。

著者に『公衆衛生におけるインフォームド・コンセント』『近代の岡山における社会事業の特質と展開過程－済世顧問と公衆衛生活動』など。論文多数。

ご希望の方には「優待席」をご用意します。
この用紙のままFaxでお申し込みください。

1月25日(金)必着

お名前（企業名）

〒

ご住所

申込人数

※ 2名までとさせていただきます。

ご連絡先（電話など）

fax 086-225-5046

優待席お申込は、ハガキ、e-mailでも受け付けます。

- ◆ e-mail nichiran@rsk.co.jp
- ◆ ハガキ宛先 〒700-8580 山陽放送内(公財)山陽放送学術文化財団
- ◆ 申し込みは1枚(1回)につき2人迄となります。(複数応募不可)

希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。

「優待席のご案内」はハガキでお知らせします。

絶賛発売中!

「岡山蘭学の群像1・2・3」

A5判 定価 1・2 本体 1400円+税
3 本体 1600円+税

先人のあくなき探究心と、歴史のダイナミズムがここに!



最寄りの書店でお求めください。

今回は

第5回「慈愛と福祉の先駆者たち」

テーマ: 「山室 軍平」

2019年6月6日(木)

山陽新聞社さん太ホール